

第2回ワーキンググループ資料

国土交通省 都市局

都市政策課 デジタル情報活用推進室

令和5年12月5日

本日のWGでご議論いただきたいこと

【論点1（第2回WG更新）】

国交省都市局として、「Well-beingの向上」のため速やかに実現すべきスマートシティの方向性を提示すべきではないか？

併せて、「Well-beingの向上」として具体的に何を指すのか、特に「主観的評価」の面に関する課題も認識しつつ、指標のあり方も含めて整理すべきか？



【論点1'】

スマートシティの様々な適用については、「わかりやすい」成果と「持続する」枠組みも必要ではないか？



スマートシティの方向性を、車の両輪のように、次の2つの観点で議論してはどうか？

《1》スマートシティを進める仕組みとしてのストーリーづくり
+ Well-beingの指標化(主観／客観)

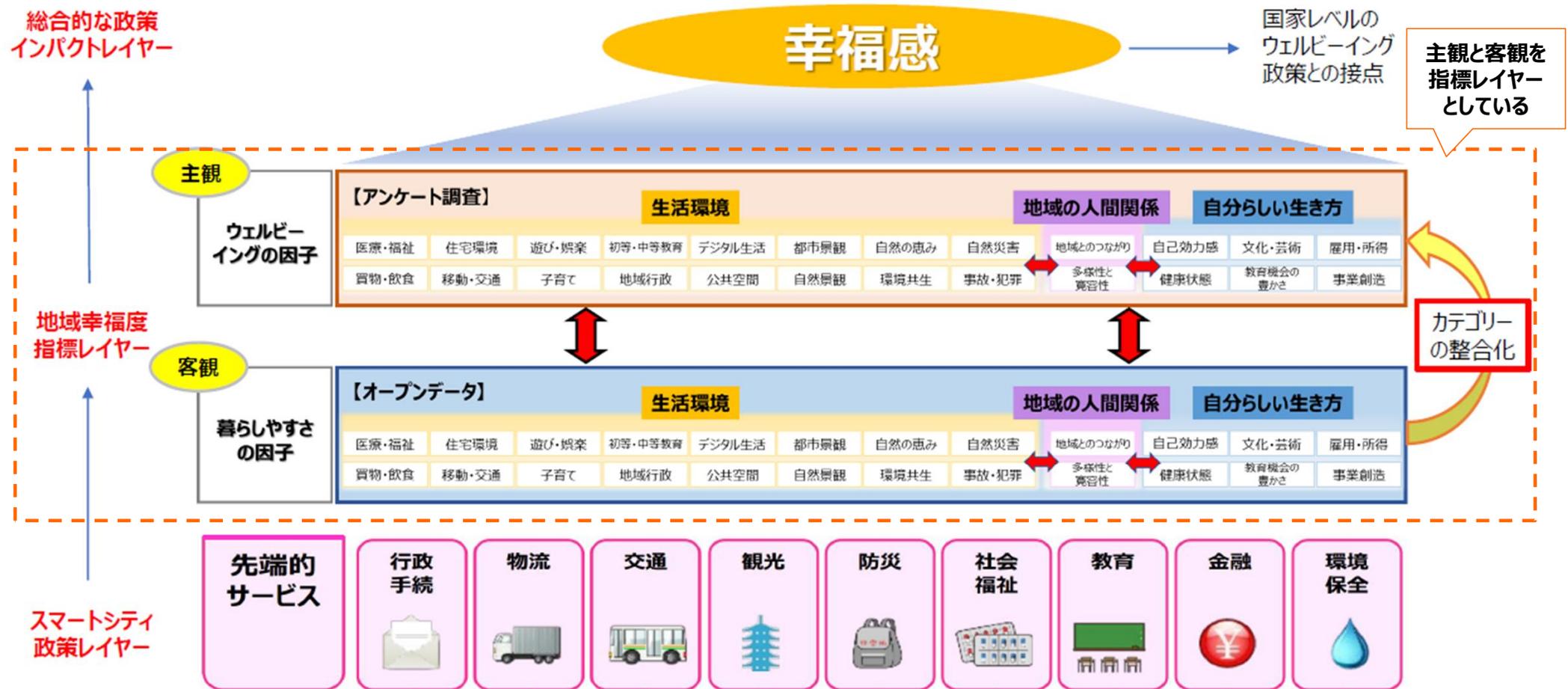
《2》スマートシティで実現したい都市の具体的なかたち(目に見える成果・手触り感)
+ 持続性(民間事業者のマネタイズや公共予算の確保)

Well-Beingに関する 指標の状況

- デジタル庁および一般社団法人スマートシティ・インスティテュートにより、「**地域幸福度(Well-Being) 指標**」が公表され、デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ TYPE 2 / 3）において指標の活用が申請要件とされるなど、活用が推奨されつつある。
- 同指標は暮らしやすさに関連する**各種統計データを指標化した客観指標**と、市民等への**アンケート調査結果を指標化した主観指標**から構成され、計測結果をレーダーチャートの形で視覚的に表示している。
- なお、基本的なデータ及びアンケート調査票など、基本的な計測ツールはデジタル庁から無償で提供。また、分析結果を表示するためのソフトもオンラインで提供されている。

地域幸福度(Well-Being) 指標の概要

- 地域幸福度指標は、各地域における政策と、その政策インパクトとして現れる市民の幸福感とを結びます。
- 主観指標と客観指標を同じ因子構成とすることで主観と客観の紐づけを簡素化し、因子間の関連から各自治体が注目すべき因子の抽出が可能です。



観点《1》の参考 Well-Beingに関する評価指標 (3/3)

具体的な指標カタログの例(都市局にて抜粋)

主観(ウェルビーイング)指標例

暮らしやすさ客観指標例

生活環境

住宅・環境

- 自宅には、心地よい居場所がある
- 【逆】自宅の周辺では、騒音に悩まされている

自然災害

- 暮らしている地域では、防災対策がしっかりしている

移動・交通

- 公共交通機関で好きな時に好きなところへ移動ができる

公共空間

- 地域の雰囲気は自分にとって心地よい(相性)
- まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある

住宅・環境

- 住宅あたり延べ面積
- 平均価格(住宅地)
- 専用住宅1m2あたり家賃

自然災害

- 外水氾濫危険度
- 土砂災害危険度
- ハード対策

移動・交通

- 駅またはバス停留所徒歩圏人口カバー率
- 駅およびバス停徒歩圏人口密度
- 職場までの平均通勤時間

公共空間

- 公園緑地徒歩圏カバー率
- 人口あたり公園の面積
- 歩道設置率
- ウォークブル指数

地域の人間関係

地域とのつながり

- 私は同じ町内に住む人たちを信頼している。
- 町内の人困っていたら手助けする
- このまちに愛着を持っている

多様性と寛容性

- 町内にはどんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある
- 女性が活躍しやすい
- 若者が活躍しやすい

地域とのつながり

- 人口当たりの自殺者数
- 既近者の割合
- 高齢単身世帯の割合

多様性と寛容性

- 議会における女性議員の割合
- 自治体職員における障害者の割合
- 人口あたり外国人人口

自分らしい生き方

健康状態

- 身体的に健康な状態である
- 精神的に健康な状態である

雇用・所得

- やりたい仕事を見つけやすい
- 適切な収入を得るための機会がある

健康状態

- 健康寿命(男性・女性別)

雇用・所得

- 完全失業率
- 正規雇用者比率
- 高齢者有業率